

市民の環境意識の把握のためのアンケート集計結果

1 アンケートの目的

真庭市の環境や地球温暖化について、市民や市内事業者の考えや取り組みの状況等を把握し、真庭市の今後の施策の参考とすることを目的とし、アンケートを実施した。

2 アンケート対象と回収状況

アンケート調査の対象者は、市民及び事業者とした。

回収率は市民が 40.8%、事業者が 52.0%であった。

図表 0.1 アンケート調査の対象者と配布・回収状況

対象者	調査票の配布数	調査票の回収数
市民※1	1,000 通	408 通 (回収率 40.8%)
事業所※2	100 通	52 通 (回収率 52.0%)

※1；真庭市内にお住まいの 18 歳以上の方の中から、1,000 人を無作為に抽出

※2；市内の事業者の中から、100 事業所を無作為に抽出

3 アンケート結果概要

(1) 市民

ア 回答者の構成

回答者は 60 代以上が 7 割以上を占めており、高齢者からの回答が多くなっている。また、住宅形態として、8 割以上が一戸建て住宅（持家）であった。

イ 真庭市の環境に関すること

身の回りの環境に関しては、自然環境（山や河川等）や生活環境（大気や騒音、悪臭等）に対する満足度が高いことが分かった。一方、公共交通の利便性や公園の数や広さ、街路の夜間照明といった公共サービスに対する満足度は、低い傾向となった。

また、真庭市の誇れる環境としては、現在は身近な自然、旭川、田園風景といった自然環境に対して充実感が得られていることが分かった。将来の理想としては、人々の環境意識、資源リサイクル、環境づくりの発信、地球温暖化対策や省エネといった項目があげられる。

日常生活での環境保全の取り組み内容としては、騒音防止やごみの適正処理、資源リサイクルへ積極的な意向があることが分かった。

一方、木質バイオマスの利用、太陽光発電・太陽熱温水器の利用、公共交通機関の利用については、他の項目と比べ、取り組みへの意識がやや低い傾向がうかがえた

ウ 地球温暖化に関すること

地球温暖化に関しては、回答者の9割以上が地球温暖化の影響を感じているが、パリ協定における我が国の温室効果ガス削減目標の認知度は5割程度にとどまった。地球温暖化の問題や実施すべき対策等について、環境教育等を通じて、若年層の段階から認識を向上させていく必要があると考えられる。

エ クールチョイスに関すること

クールチョイスの認知度は2割程度となった。また、クールチョイスを知ったきっかけは、テレビ・ラジオや新聞・雑誌等のメディア関連が多かった。一方、環境省や真庭市のWEBサイトやソーシャルメディア等のインターネット情報は総じて少なく、クールチョイスの認知度向上ならびに普及促進に向けては、市の広報誌や地域の回覧板、公民館の活用等、高齢者にも伝わりやすい方法が効果的と考えられる。

回答者の日常生活におけるクールチョイスの取り組み内容としては、省エネ機器への買替、照明の効率的な利用、クールビズ・ウォームビズ、エコドライブ等の実施が多かった。一方、住宅のエネルギー・マネジメント、クールシェア・ウォームシェア、カーシェアリングについては取り組みが少なかった。これらについては、身近な場面での機会の有無もあるが、具体的な内容や効果が、一般的にまだ十分浸透していないものと考えられる。

また、クールチョイスに取り組んでいない理由は、経済的負担や取り組み方法が分からないという理由が6割程度あった。このため、誰でも実施しやすい取組の紹介や具体的な効果等、普及啓発を図っていくことが重要と考えられる。

オ 真庭市（行政）への期待

真庭市（行政）へ期待することについては、ごみの減量化・リサイクルの推進が最も多かった。これは、日常生活で取り組んでいる環境保全の内容とも一致するものであり、市民の関心が高いことが分かった。

その他、省エネ機器への買替の促進、エコカーの普及促進の割合も高かったことから、真庭市（行政）から、その具体的な手法や経済的なメリット等の情報提供を行うことで、各家庭での取り組みを加速させることができると考えられる。併せて、関心の高かった環境教育・環境学習の充実については、地球温暖化や省エネをテーマとすることで、効果的な施策になるものと考えられる。

一方、低炭素物流の普及促進、クールシェア・ウォームシェア実施の推進については、回答の割合が低く、これらについては、一般的に認知度や内容の理解度が低いものと考えられる。

(2) 事業者

ア 回答事業者の構成

回答事業者の業種としては、製造業及び卸売・小売業が比較的多く、従業員数50人以下の小規模事業所が8割以上であった。また、エネルギー使用の合理化に関する法律における特定事業者又は特定連鎖化事業所は1割以下（4事業所）であった。

イ 事業所での環境の取組状況

事業所における環境関連の業務や作業を取り扱う部署や担当者の配置状況は、設置している、今後設置する予定との回答が4割以上であったが、設置する予定がないとの回答は5割となった。また、環境保全への取組の考え方については、法令遵守で手一杯で積極的な取り組みまでではないのが実情、との回答が3割程度となった。また、環境対策へ取り組むことの重要性については、非常に重要、ある程度重要との回答の割合は、社会的責任面で7割程度、経営面で6割程度となった。これらを踏まえると、多くの事業者で環境対策の重要性を感じつつも、単独事業所では人材不足等が課題となっており、環境対策を積極的に進めるためには、業界や他事業所等との協働での取り組みが、一つの有効な手段になると考えられる。

また、事業活動と環境問題の関連性については、産業廃棄物の排出が7割程度、二酸化炭素の排出による地球温暖化が5割程度の回答があった。一方、事業所での環境保全の取り組み内容としては、リサイクル・ごみの減量化、節電、エアコンの省エネ等の回答が多く、各事業所で関連のある環境問題に対し、身近なことから対応を進めている様子が見えられた。

ウ 地球温暖化に関すること

地球温暖化に関しては、回答事業者の9割以上が地球温暖化の影響を感じているが、パリ協定における我が国の温室効果ガス削減目標の認知度は6割程度となった。また、温室効果ガス削減目標を設定している事業所は2割程度にとどまった。

また、省エネや地球温暖化対策についての研修会等に対しては、6割以上の事業者が関心があると回答している。また、研修会等で希望するテーマについては、再生可能エネルギー（木質バイオマス、太陽光・太陽熱）の活用、国や自治体の補助金や支援施策の割合が高かった。

エ クールチョイスに関すること

クールチョイスの認知度は1割程度であり、市民の回答の割合より、やや低い状況であった。また、クールチョイスを知ったきっかけは、取引先や顧客、催し・イベント、新聞・専門誌等、様々であった。

普段の業務活動におけるクールチョイスの取り組み内容は、不要な照明の間引き・休憩時間の消灯の実施、LED等の高効率の照明器具の導入、エアコンの適正な使用、クールビズ・ウォームビズの展開、空調機器の適正な管理、エコドライブの指導・実践等が多かった。一方、公共交通機関や自転車・徒歩の利用促進、エネルギー・マネジメント（BEMS等）の導入、高性能の断熱材や二重サッシの導入については、取り組みが少ない状況であった。特にエネマネや高性能断熱材・二重サッシに関しては、取り組みが進んでいない理由として、資金面の課題も考えられるが、現状では、一般的に取り組みの具体的な内容やその効果が、十分浸透していないことも一因と考えられる。

また、クールチョイスに取り組む理由として、コスト削減の割合が最も多かった。一方で、クールチョイスに取り組んでいない理由は、資金不足や情報不足が4割以上となった。

なお、クールチョイスに対しては、3割程度が賛同の意向を示したが、賛同しない・無回答の割合は7割程度となった。賛同しない理由は、メリットを感じないが最も多く、その他として、関連性が薄い等の理由があげられた。

クールチョイスの普及促進に向けては、様々な取り組みメニューの中でも、小規模な事業所でも実施しやすい身近な取り組みからのスタートを促していく必要があると考えられる。このため、クールチョイスの具体的な取り組みの方法や経済的なメリット等について、理解促進を図っていく必要があると考えられる。

オ 真庭市（行政）への期待

地球温暖化対策の推進に向け真庭市（行政）へ期待することについては、ごみの減量化・リサイクルの推進が最も多く、これらは、事業所で取り組んでいる環境保全の内容と一致するものであり、回答事業所で関心が高いことが分かった。その他、環境教育・環境学習の充実、省エネ機器への買替の促進、再生可能エネルギーの導入促進、クールビズ・ウォームビズの推進等の割合が高かった。

一方、緑のカーテン・屋上緑化の推進、低炭素物流の普及促進、クールシェア・ウォームシェアの推進については、回答の割合が低かった。特に、低炭素物流の普及促進、クールシェア・ウォームシェアの推進については、市民へのアンケートでも割合が低かったことから、一般的な認知度や内容の理解度が低いことが考えられる。また、クールチョイスに対し、4割以上が賛同の意向を示したが、賛同しない・無回答の割合は6割程度となった。賛同しない理由は、メリットを感じないが最も多く、その他として、内容が分からない、経済的負担等の理由があげられており、クールチョイスの取り組み内容や経済的なメリットについて、広報・普及を進め、理解促進を図る必要があると考えられる。

4 アンケート調査の設問

アンケート調査票の設問は、以下のとおりに実施した。設問の内容は「環境に関する意識と取り組み状況」、「地球温暖化に関する認識」、「クールチョイスに関する認識」、「真庭市への要望」、「クールチョイスへの賛同」の順で構成した。

図表 0.2 アンケート調査票の設問

市 民		事 業 者	
問1	ご自身のこと	問1	事業所のこと
問1-1	性別、年齢、地域、その他	問1-1	所在地域、業種、従業員数、その他
問2	真庭市の環境に関すること	問2	事業所での環境への取り組み状況
問2-1	身の回りの環境についての満足度	問2-1	環境関連の業務や作業を取り扱う部署や担当者の配置状況
問2-2	真庭市の誇れる環境に関する現在と将来の理想	問2-2	環境対策へ取り組むことの重要性（経営面、社会的責任面）
問2-3	日常生活での環境保全の取り組み内容	問2-3	環境保全への積極的な取り組みの考え方
		問2-4	事業活動と環境問題の関連性
		問2-5	事業所での環境保全の取り組み内容
問3	地球温暖化に関すること	問3	地球温暖化に関すること
問3-1	日常生活で地球温暖化の影響を感じる事柄	問3-1	普段の業務で地球温暖化の影響を感じる事柄
問3-2	パリ協定における我が国の温室効果ガス削減目標の認知状況	問3-2	パリ協定における我が国の温室効果ガス削減目標の認知状況
		問3-3	事業所での温室効果ガス削減目標の設定状況
		問3-4	省エネや地球温暖化対策についての研修会等への関心
		問3-5	省エネや地球温暖化対策についての研修会等が開催される場合のテーマ
問4	クールチョイスについて	問4	クールチョイスについて
問4-1	クールチョイスの認知状況	問4-1	クールチョイスの認知状況
問4-2	クールチョイスを知ったきっかけ	問4-2	クールチョイスを知ったきっかけ
問4-3	日常でのクールチョイスの取り組み内容	問4-3	事業所でのクールチョイスの取り組み内容
問4-4	クールチョイスに取り組んでいない理由	問4-4	事業所でクールチョイスに取り組む理由
問4-5	地球温暖化対策の推進に向けた真庭市（行政）への期待	問4-5	事業所でクールチョイスに取り組んでいない理由
問4-6	クールチョイスへの賛同	問4-6	地球温暖化対策の推進に向けた真庭市（行政）への期待
		問4-7	クールチョイスへの賛同
記載欄	真庭市の環境行政に関するご意見・ご要望	記載欄	真庭市の環境行政に関するご意見・ご要望

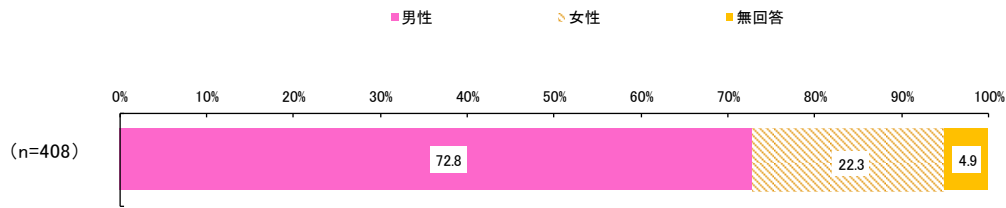
5 アンケート結果（市民）

(1) 回答者の構成

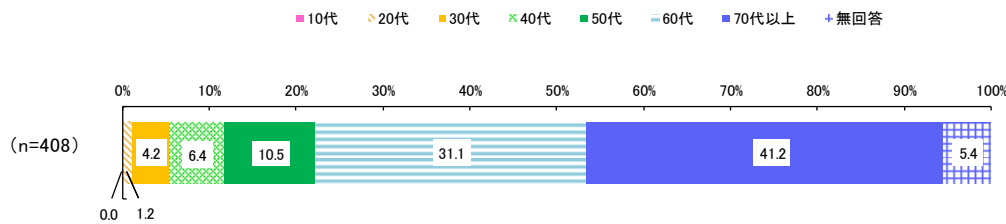
回答者の内訳は性別、年齢、居住地域、世帯人数等に区分すると以下のとおりとなる。

- ・回答者の割合は男性が72.8%、60代以上が72.3%で、高齢者及び男性からの回答が多くなっている。

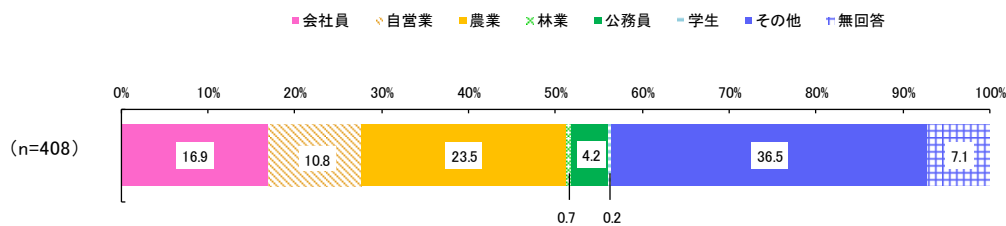
(回答者の性別構成)



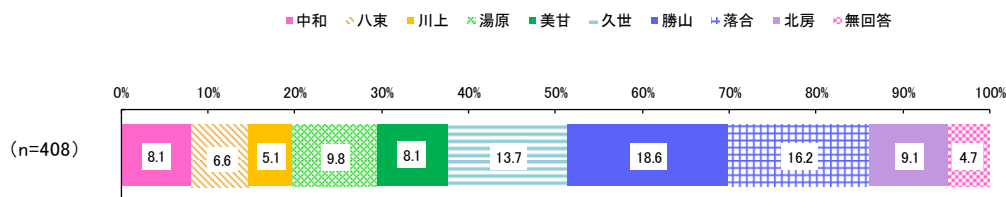
(回答者の年齢構成)



(回答者の職業別割合)

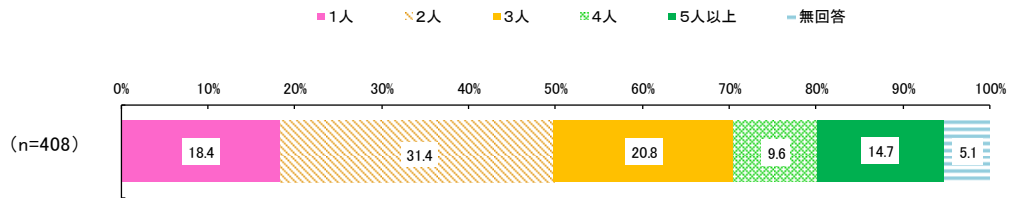


(回答者の地区別割合)

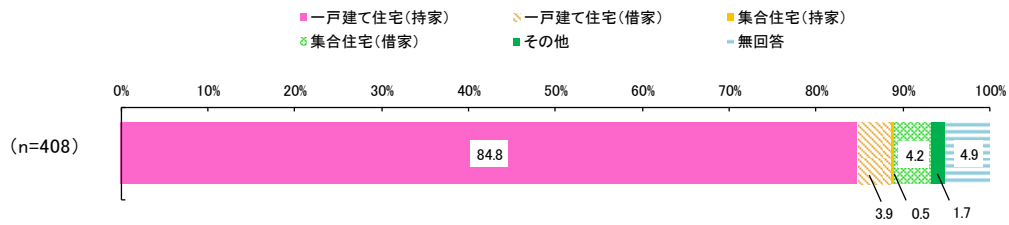


- ・世帯人数は、1～2人が49.8%、3人以上が45.1%であった。また、住宅形態は、一戸建て住宅（持家）が84.8%と多くなっていた。

（世帯人数）



（住宅形態の割合）

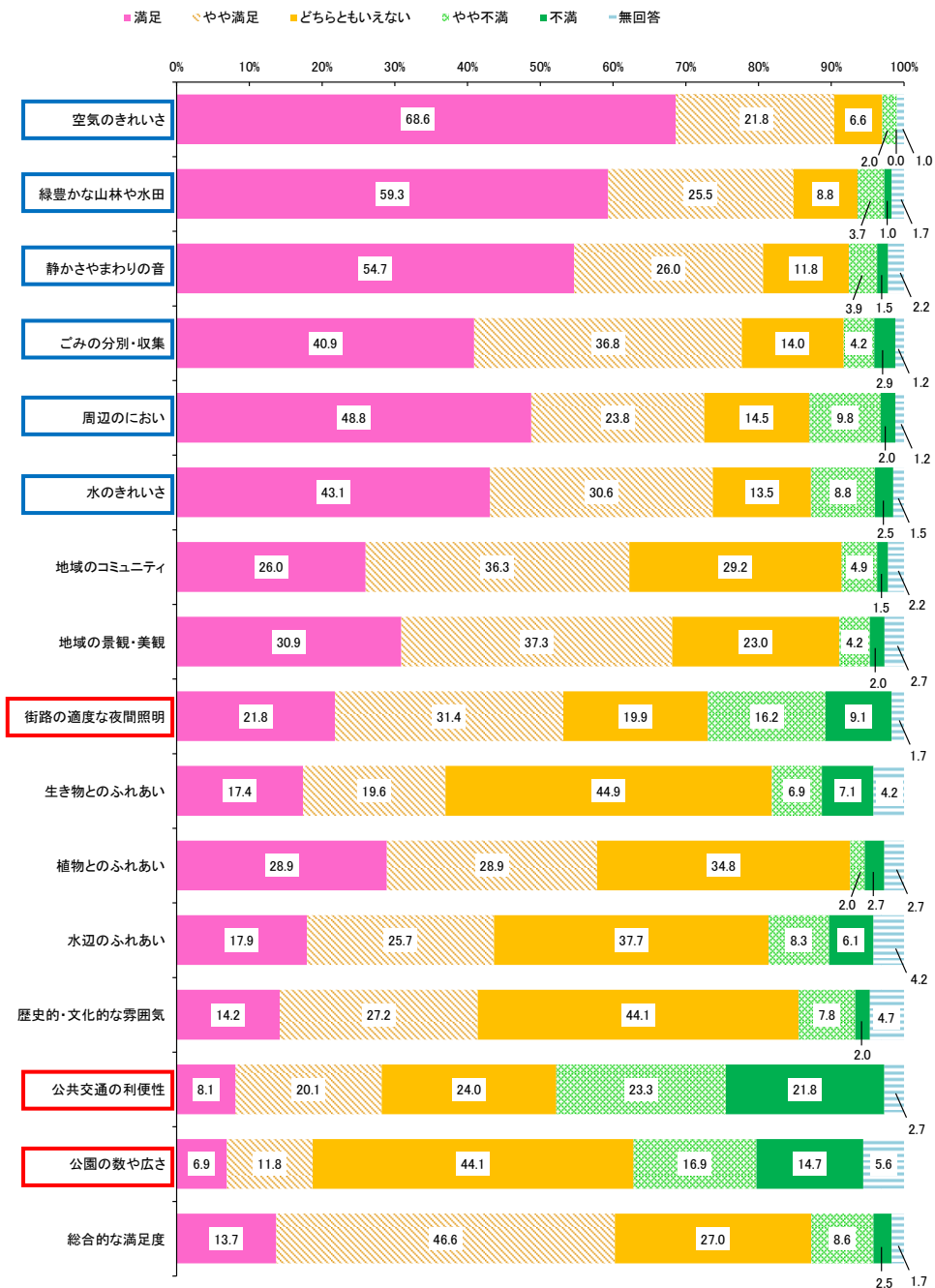


(2) 真庭市の環境に関すること

ア 身の回りの環境についての満足度

現在の身の回りの環境に関する満足度の回答は、以下のとおりとなる。

- ・「空気のきれいさ」、「緑豊かな山林や水田」、「静かさやまわりの音」、「ごみの分別・収集」、「周辺のおい」、「水のきれいさ」に関しては、満足度が相対的に高くなっている。
- ・一方、「公共交通の利便性」、「公園の数や広さ」、「街路の適度な夜間照明」に関しては「やや不満」、「不満」が相対的に高くなっている。
- ・「総合的な満足度」では、60.3%の市民が「満足」、「やや満足」と回答し、「やや不満」「不満」と回答した市民は11.1%であった。

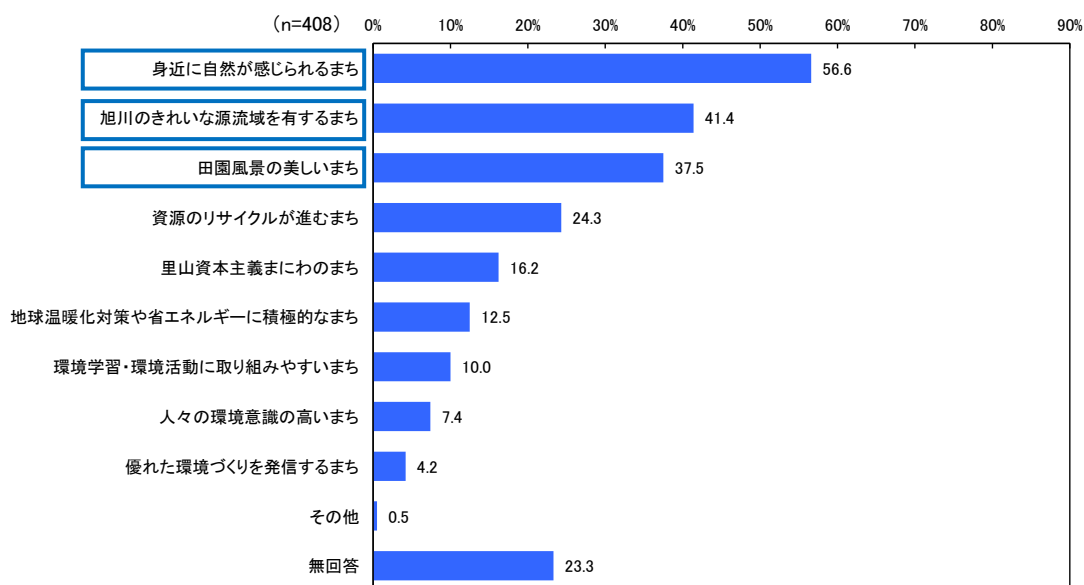


イ 真庭市の誇れる環境に関する現在と将来の理想

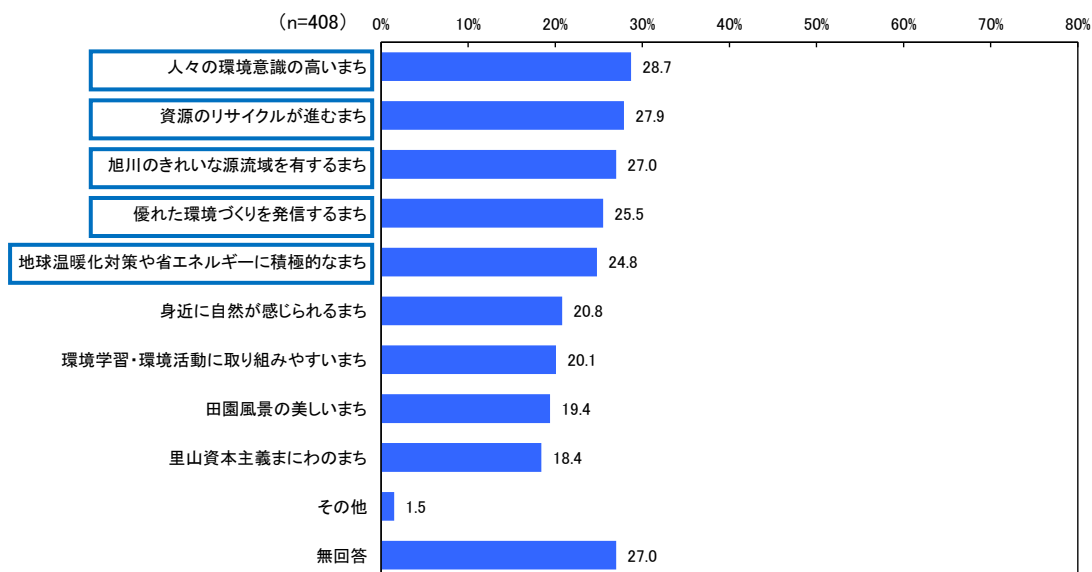
真庭市の誇れる環境に関し、現在と将来の理想の回答結果は、以下のとおりとなる。

- ・現在の認識としては「身近に自然が感じられるまち」が 56.6%、「旭川のきれいな源流域を有するまち」が 41.4%、「田園風景の美しいまち」が 37.5%であり、これらの割合が高くなっている。
- ・将来の理想としては「人々の環境意識の高いまち」が 28.7%、「資源のリサイクルが進むまち」が 27.9%、「旭川のきれいな源流域を有するまち」が 27.0%、「優れた環境づくりを発信するまち」が 25.5%、「地球温暖化対策や省エネルギーに積極的なまち」が 24.8%であり、これらの割合が比較的高くなっている。
- ・また、「その他」の記載事項としては、若い人が住みやすい町、福祉の充実、野性動物との共生、稲穂の美しいまち、観光に積極的なまち、木の文化の推進等があげられた。

(現在)



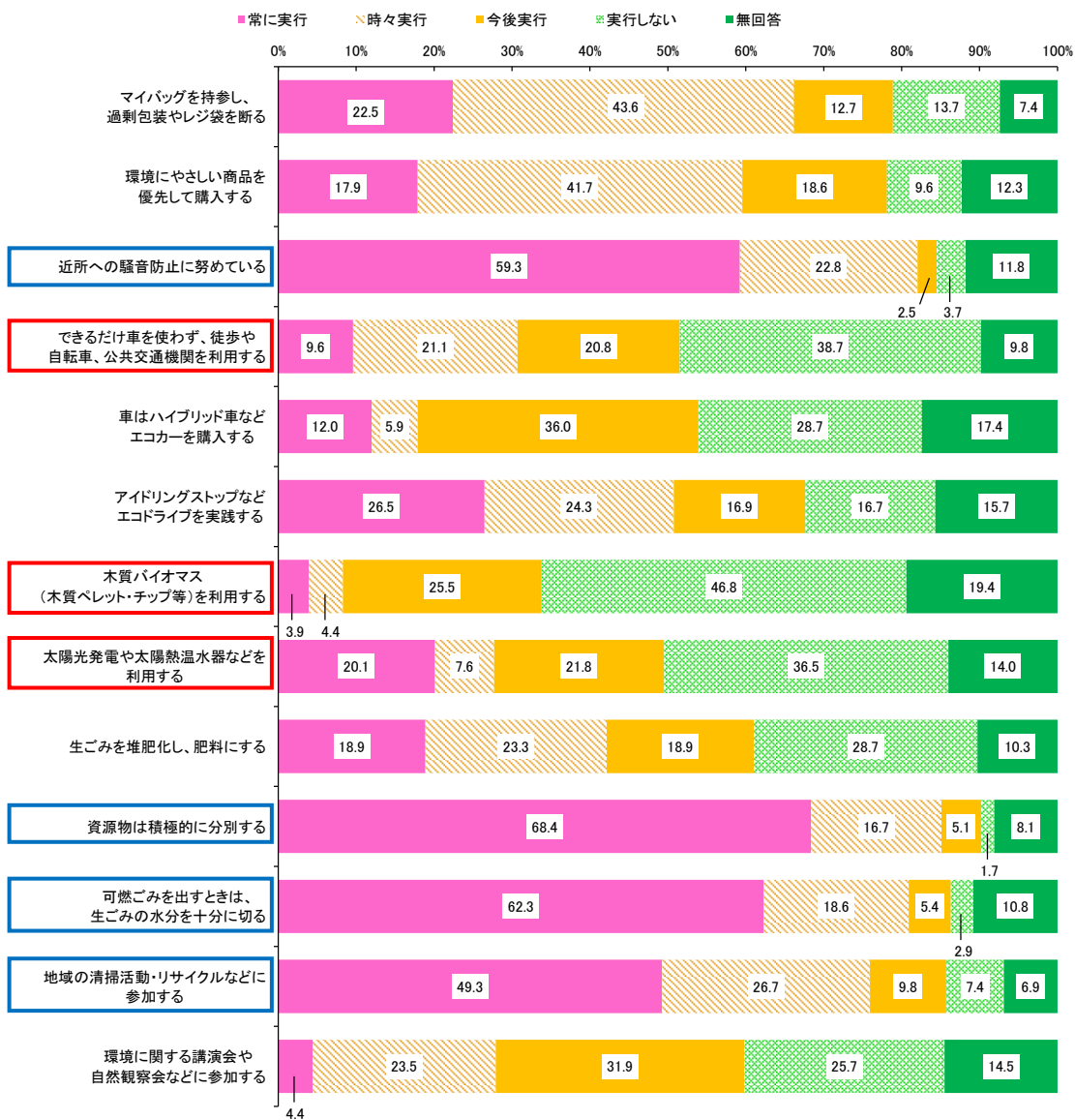
(将来の理想)



ウ 日常生活での環境保全の取り組み内容

日常生活の中での環境保全に対する取り組みの内容は、以下のとおりとなる。

- ・「近所への騒音防止に努めている」、「資源物は積極的に分別する」、「生ごみの水分を十分に切る」、「地域の清掃活動・リサイクルなどに参加する」は、「常に実行」「時々実行」の割合が高くなっている。
- ・一方、クールチョイスに資する項目で、「実行しない」、「無回答」の割合は、「木質バイオマスを利用する」で66.2%、「太陽光発電や太陽熱温水器などを利用する」で50.5%、「徒歩や自転車、公共交通機関を利用する」が48.5%となっている。

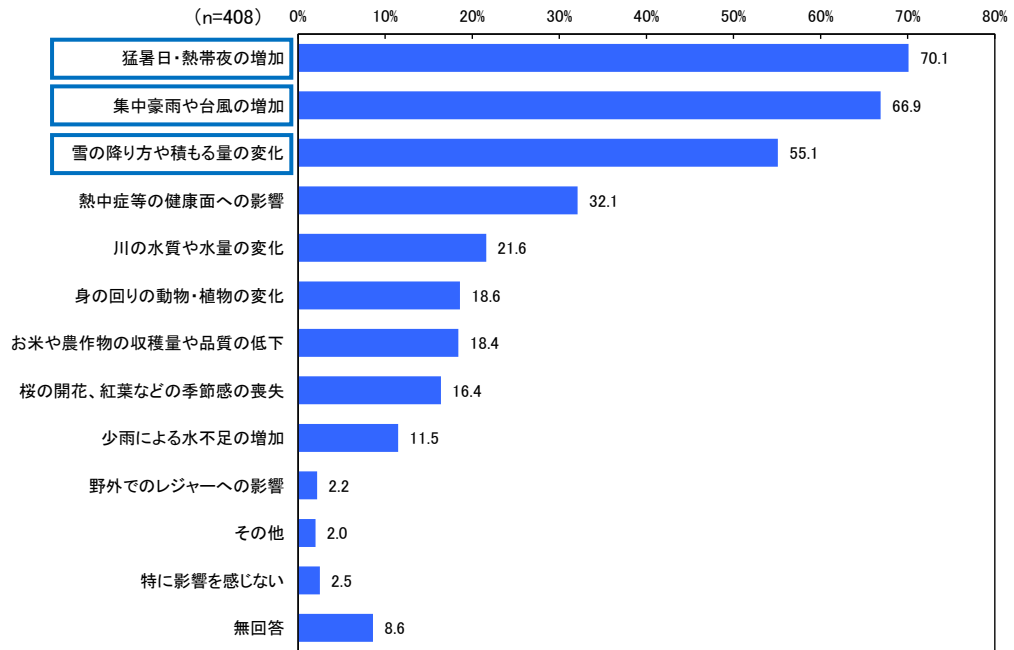


(3) 地球温暖化に関すること

ア 日常生活で地球温暖化の影響を感じる事柄

日常生活において身の回りで感じる地球温暖化の影響の回答は、以下のとおりとなる。

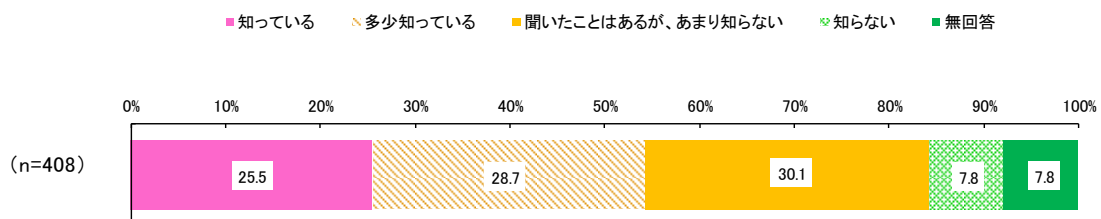
- ・「猛暑日・熱帯夜の増加」が70.1%、「集中豪雨や台風の増加」が66.9%、「雪の降り方や積もる量の変化」が55.1%であり、気象に関することの割合が高くなっている。
- ・また、「その他」の記載事項としては、ストーブの使用日数の減少、農業での肥料の量やタイミングの変化、四季感の喪失等があげられた。



イ パリ協定における我が国の温室効果ガス削減目標の認知状況

パリ協定（COP21）における我が国の温室効果ガス削減目標について、回答市民の認知状況は以下のとおりとなる。

- ・「知っている」、「多少知っている」の割合は、54.2%であった。
- ・一方、「あまり知らない」、「知らない」、「無回答」の割合は45.7%であった。

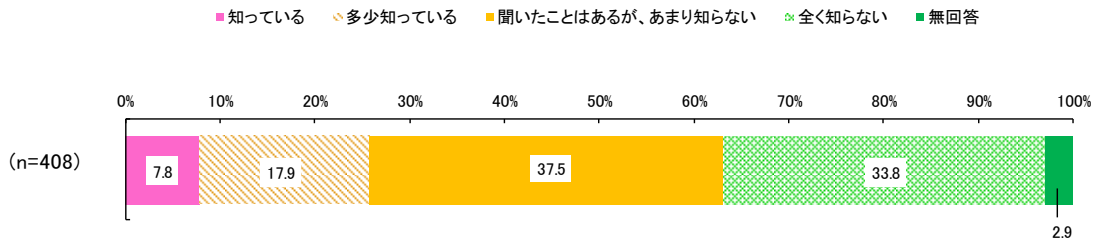


(4) クールチョイスについて

ア クールチョイスの認知状況

クールチョイスの認知状況についての市民の回答は、以下のとおりとなる。

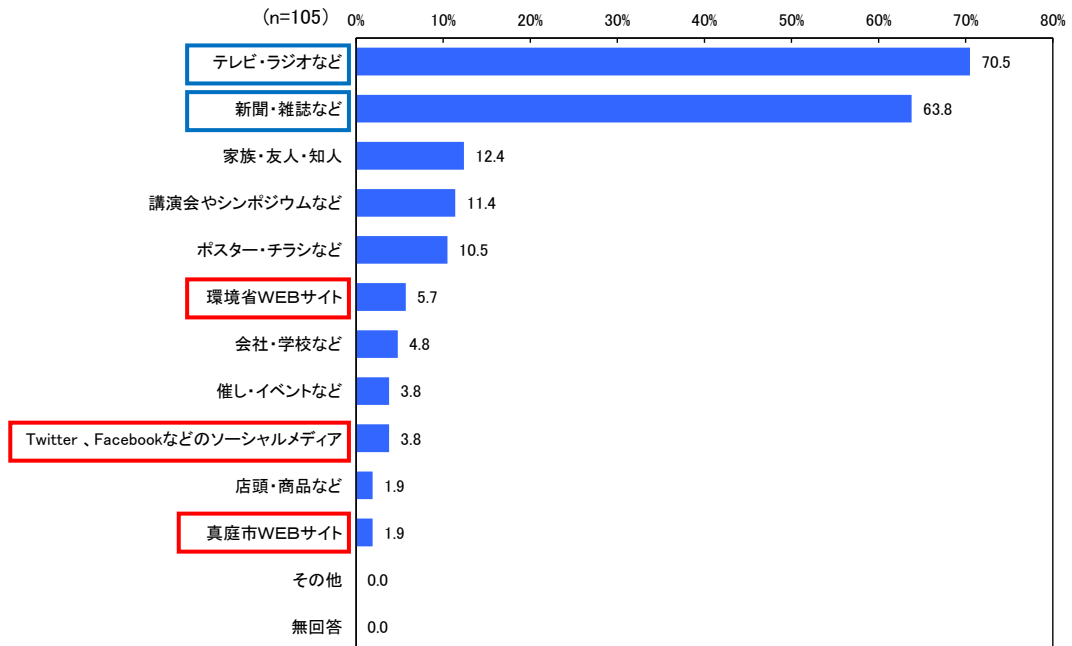
- ・「知っている」、「多少知っている」の割合は25.7%であった。
- ・一方、「聞いたことはあるが、あまり知らない」、「全く知らない」、「無回答」の割合は74.2%であった。



イ クールチョイスを知ったきっかけ

クールチョイスを知ったきっかけについての回答は、以下のとおりとなる。

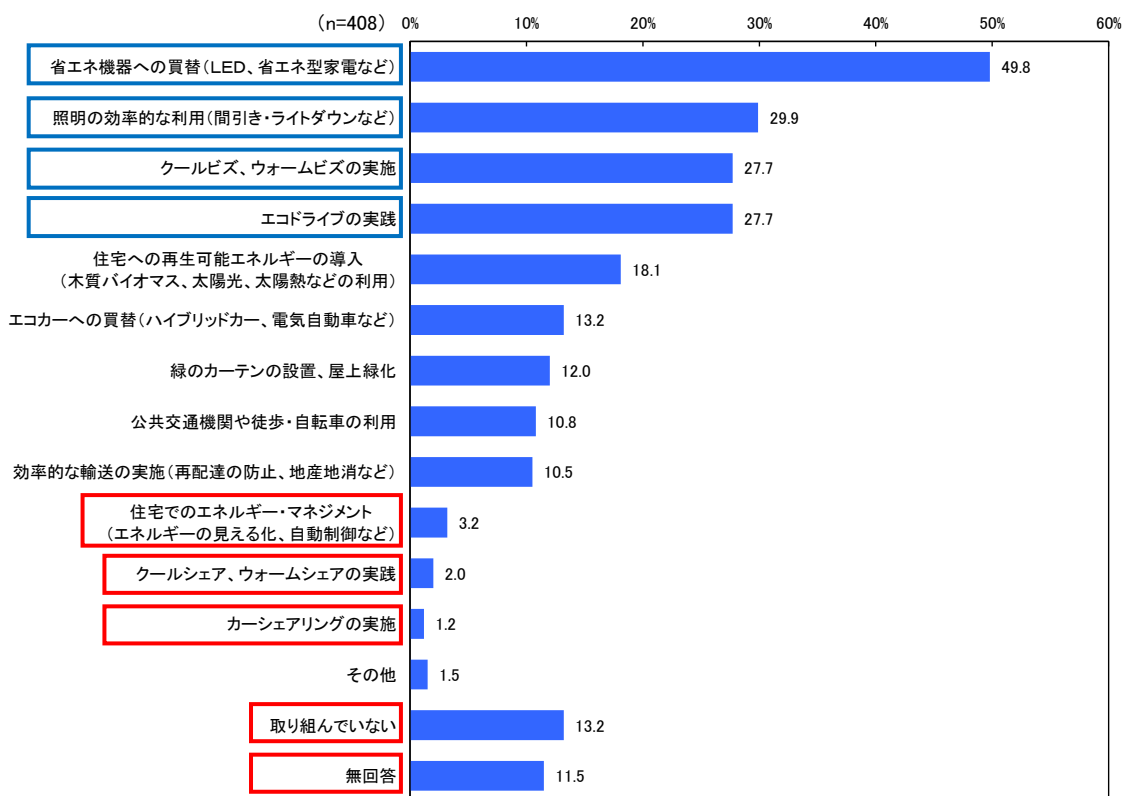
- ・クールチョイスを知ったきっかけとして「テレビ・ラジオなど」が70.5%、「新聞・雑誌など」が63.8%であり、割合が高くなっている。
- ・一方「環境省WEBサイト」は5.7%、「twitter、facebookなどのソーシャルメディア」は3.8%、「真庭市WEBサイト」は1.9%等、インターネット情報における割合は低くなっている。



ウ 日常でのクールチョイスの取り組み内容

普段の日常生活の中でのクールチョイスの取り組み内容の回答は、以下のとおりとなる。

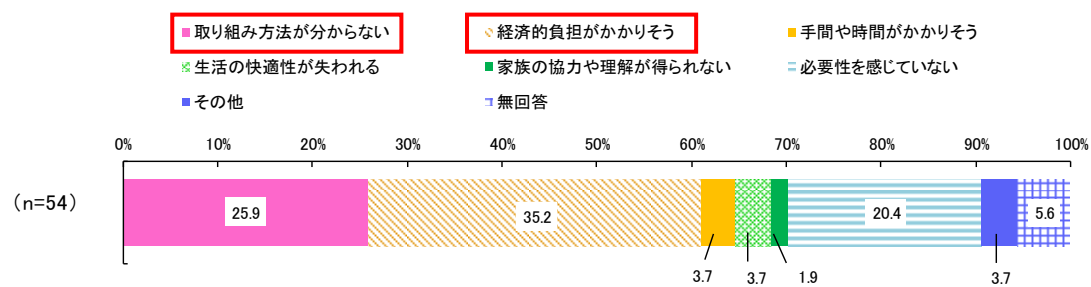
- ・ 取り組み内容では、「省エネ機器への買替」が49.8%、「照明の効率的な利用」が29.9%、「クールビズ・ウォームビズの実施」、「エコドライブの実践」がそれぞれ27.7%であり、割合が高くなっている。
- ・ 一方、「住宅でのエネルギー・マネジメント」は3.2%、「クールシェア・ウォームシェアの実践」は2.0%、「カーシェアリングの実施」は1.2%と割合が低くなっている。
- ・ また、「その他」の記載事項としては、薪ストーブの導入、木材燃料の利用、エアコンの使用を抑える、二重窓の導入等があげられた。
- ・ なお、「取り組んでいない」は13.2%、「無回答」は11.5%とこれらの割合も一定程度あった。



エ クールチョイスに取り組んでいない理由

クールチョイスに取り組んでいない理由の回答は、以下のとおりとなる。

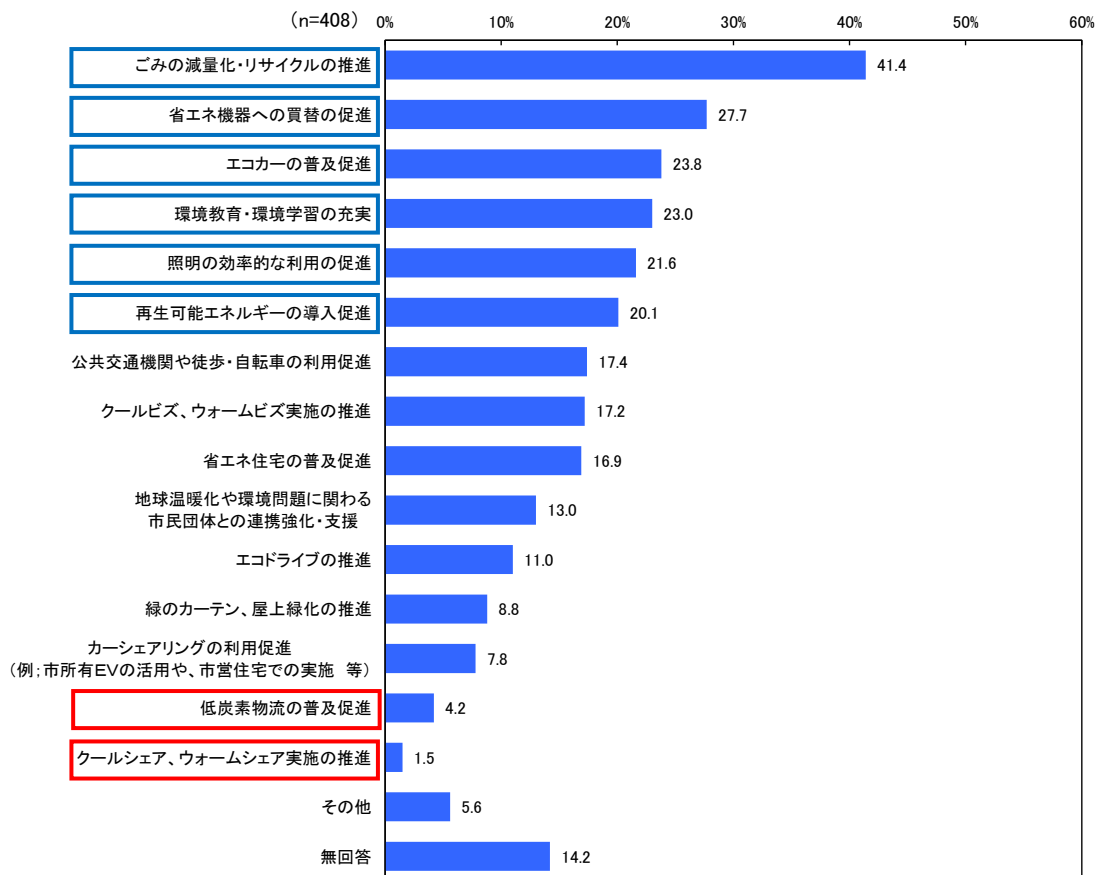
- ・クールチョイスに取り組んでいない理由は、「経済的負担がかかりそう」が35.2%で最も割合が高く、次いで「取り組み方法が分からない」が25.9%であった。
- ・また、「その他」の記載事項としては、分からない、高齢で取り組みにくい等があげられた。



オ 地球温暖化対策の推進に向けた真庭市（行政）への期待

地球温暖化対策を推進するにあたっての真庭市（行政）へ期待することについての回答は、以下のとおりとなる。

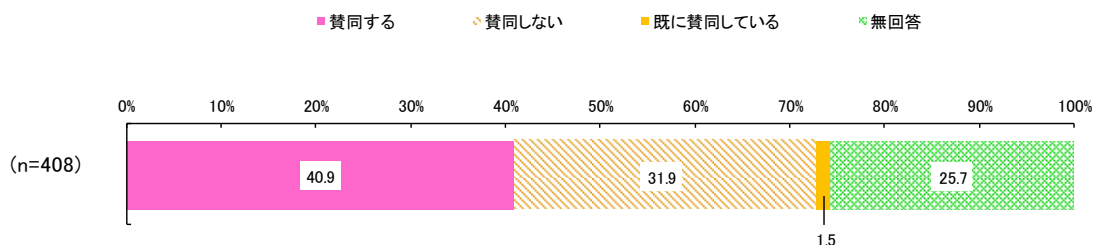
- ・「ごみの減量化・リサイクルの促進」は41.4%であり、割合が最も高くなっている。
- ・次いで「省エネ機器への買替の促進」が27.7%、「エコカーの普及促進」が23.8%、「環境教育・環境学習の充実」が23.0%、「照明の効率的な利用の促進」が21.6%、「再生可能エネルギーの導入促進」が20.1%であり、割合が高くなっている。
- ・一方、「低炭素物流の普及促進」は4.2%、「クールシェア・ウォームシェア実施の推進」は1.5%で、割合が低くなっている。
- ・また、「その他」の記載事項として、公民館等を利用した高齢者向けの広報、小規模発電（水力・風力）の促進、河川・山林の環境改善等があげられた。



カ クールチョイスへの賛同

クールチョイスへの賛同の回答は、以下のとおりとなる。

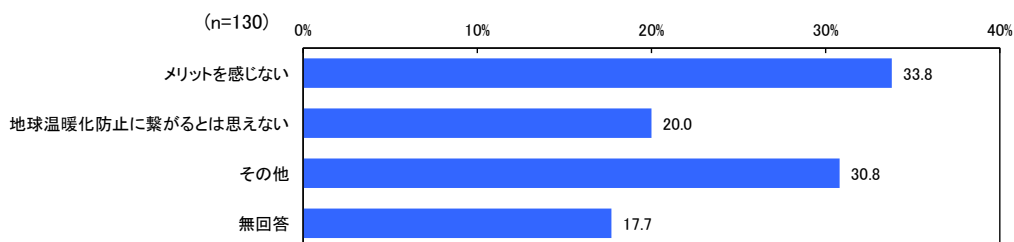
- ・「賛同する」、「既に賛同している」は42.4%で、「賛同しない」は31.9%の割合となった。
- ・「無回答」は25.7%であり、割合がやや高くなっている。



キ クールチョイスへ賛同しない理由

クールチョイスへ賛同しない理由の回答は、以下のとおりとなる。

- ・「メリットを感じない」が33.8%、「地球温暖化防止に繋がるとは思えない」が20.0%で、割合が高くなっている。
- ・また、「その他」の記載事項として、高齢で活動が難しい、時間的な余裕がない、内容がよく分からない、経済的に難しい等があげられた。



(5) 真庭市の環境行政に関するご意見・ご要望

真庭市の環境行政に関する意見や要望について、自由に記載された意見の概要は以下のとおりである。

- ・真庭市による率先行動
- ・伝わりやすい広報（広報誌の活用等）、市民への環境教育の充実
- ・ごみの減量化への対応、廃棄物焼却施設の改善
- ・中山間地域における耕地や空き家の荒廃への対応
- ・豪雪地帯の交通利便性の向上
- ・省エネ機器やエコカー導入時の補助
- ・野生動物への対応 等

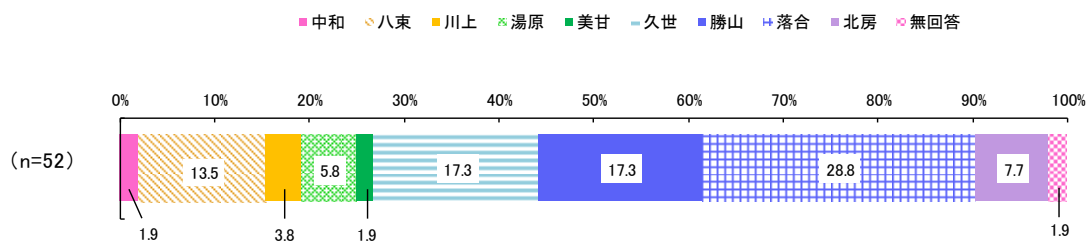
6 アンケート結果（事業者）

(1) 回答事業者の構成

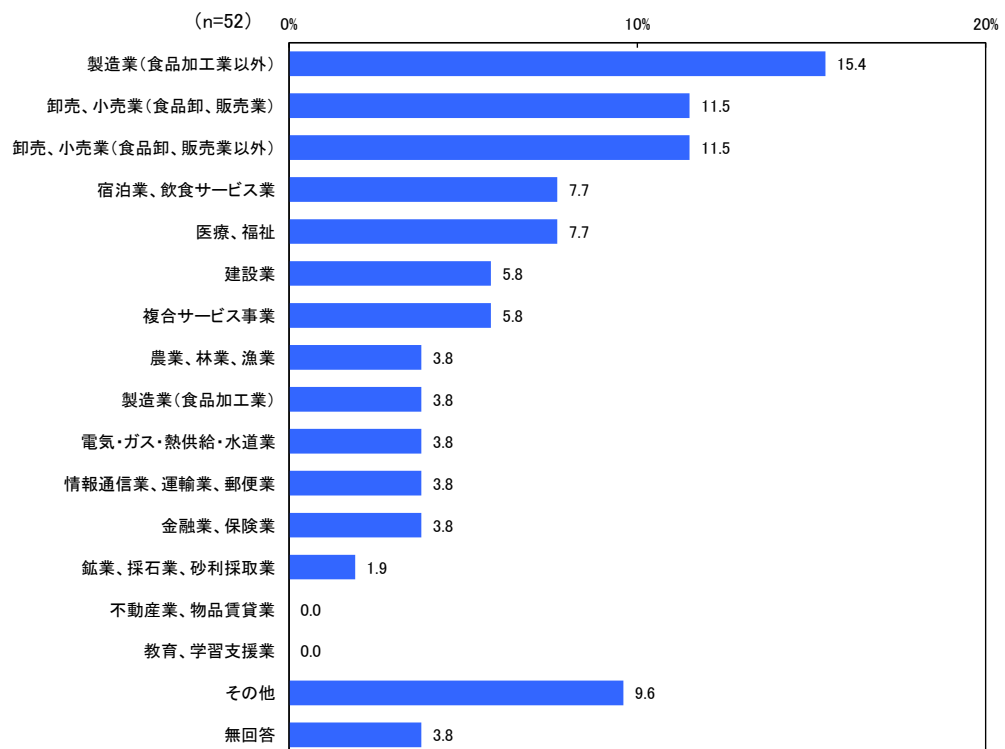
回答事業者の内訳は所在地域、業種、従業員数等で区分すると以下のとおりとなる。

- ・所在地域では「落合」が28.8%、「勝山」、「久世」がそれぞれ17.3%であり、比較的、割合が高くなっている。
- ・業種別では「製造業」が15.4%、「卸売、小売業（食品卸、販売業）」、「卸売、小売業（食品卸、販売業以外）」がそれぞれ11.5%であり、比較的割合が高くなっている。

(所在地域別の割合)

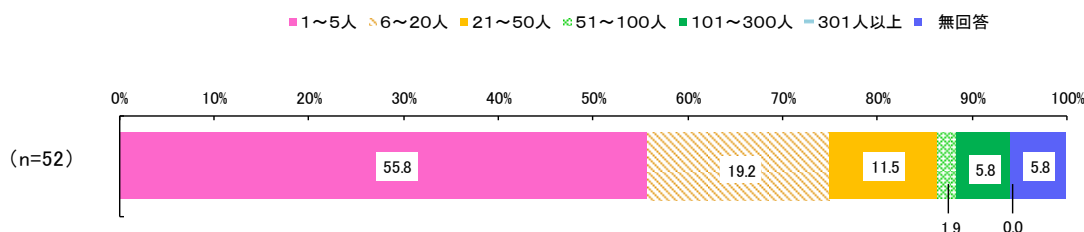


(業種別の割合)

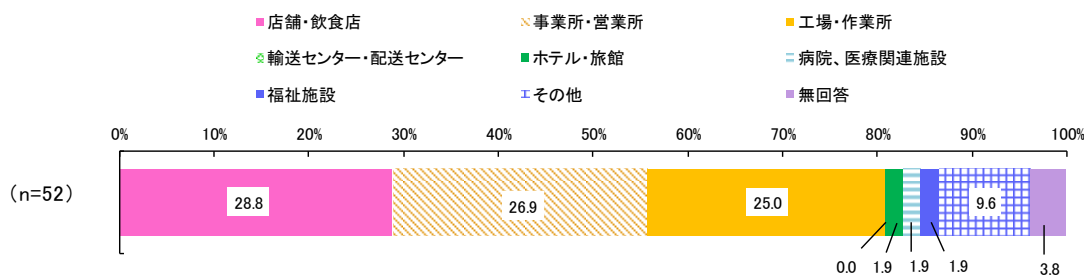


- ・従業員数は「1～5人」が55.8%、「6～20人」が19.2%であり、小規模な事業所の割合が高くなっている。一方、「101人～300人」が5.8%、「301人以上」が0%であり、大規模な事業所の割合は低くなっている。
- ・建物形態は、「店舗・飲食店」が28.8%、「事業所・営業所」が26.9%、「工場・作業所」が25.0%であり、割合が高くなっている。
- ・エネルギー使用の合理化に関する法律の指定については、「特定事業者又は特定連鎖化事業者」の割合は7.7%（4事業所）となっている。

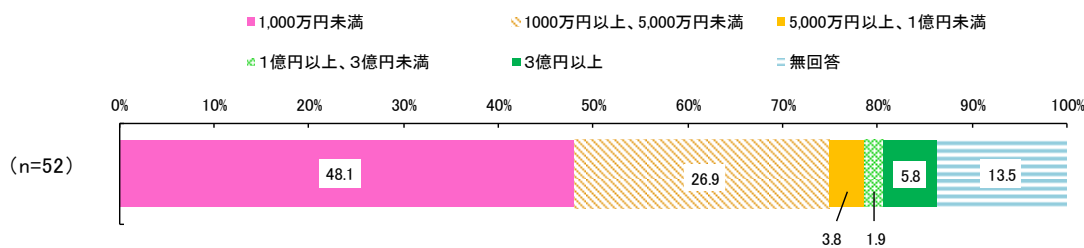
(従業員数別の割合)



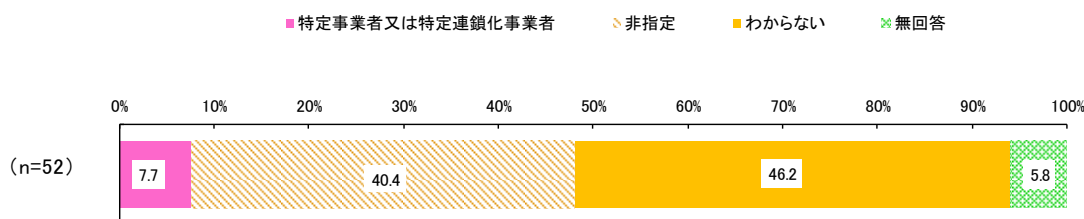
(建物形態の割合)



(資本金別の割合)



(エネルギー使用の合理化に関する法律の指定に関する形態の割合)

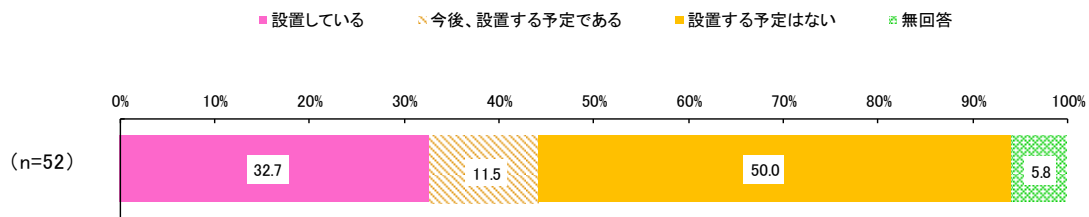


(2) 事業所での環境への取組状況

ア 環境関連の業務や作業を取り扱う部署や担当者の配置状況

事業所における環境関連（生活環境、自然環境、地球温暖化、廃棄物等）の業務や作業を取り扱う部署や担当者の配置状況の回答は、以下のとおりとなる。

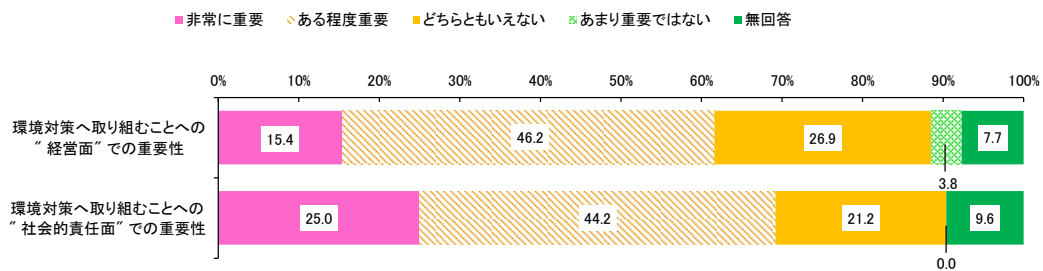
- ・「設置する予定はない」が50.0%となった。一方、「設置している」、「今後設置する予定である」は44.2%となった。



イ 環境対策へ取り組むことの重要性（経営面、社会的責任面）

事業所において環境対策へ取り組むことの重要性として、経営面、社会的責任面でのそれぞれの考えについての回答は、以下のとおりとなる。

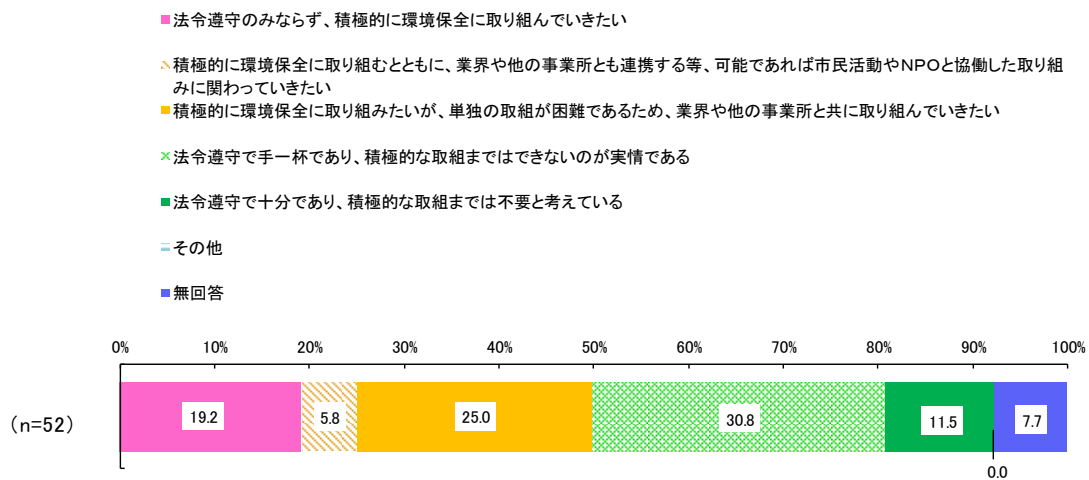
- ・経営面においては、「非常に重要」、「ある程度重要」の割合が61.6%となった。
- ・社会的責任面では、「非常に重要」、「ある程度重要」の割合が69.2%となった。



ウ 環境保全への積極的な取組の考え方

事業所における積極的な環境保全への取り組みの考え方についての回答は、以下のとおりとなる。

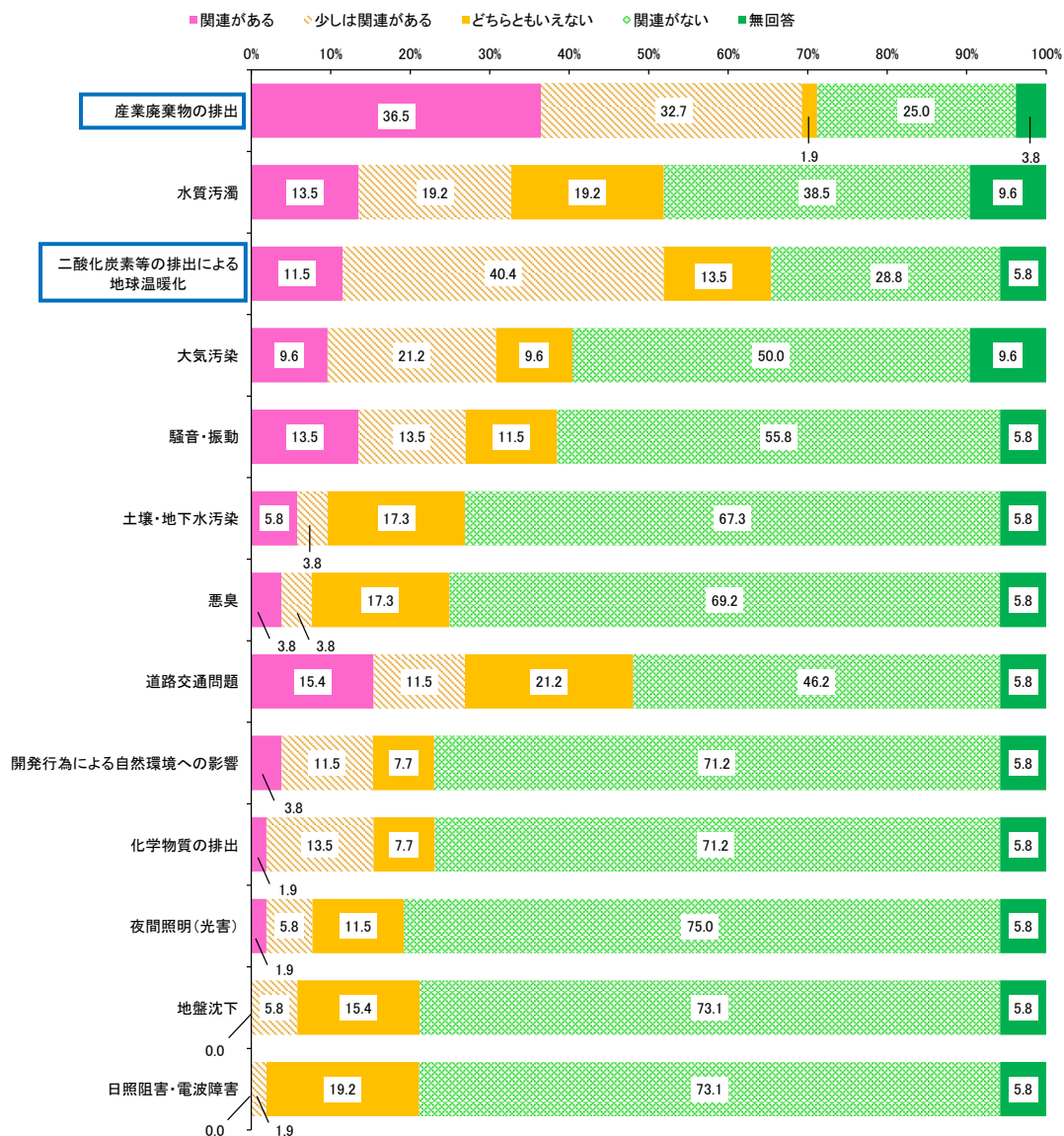
- ・「法令遵守で手一杯であり、積極的な取組まではできないのが実情である」が 30.8%で、「積極的に環境保全に取り組みたいが、単独での取組が困難であるため、業界や他の事業所と共に取り組んでいきたい」が 25.0%と割合が高くなっている。
- ・一方、「積極的に環境保全に取り組むとともに、業界や他の事業所とも連携する等、可能であれば市民活動やNPOと協働した取り組みに関わっていききたい」は 5.8%と割合が低くなっている。



エ 事業活動と環境問題の関連性

事業所での事業活動が、どのような環境問題に関連しているかの回答は、以下のとおりとなる。

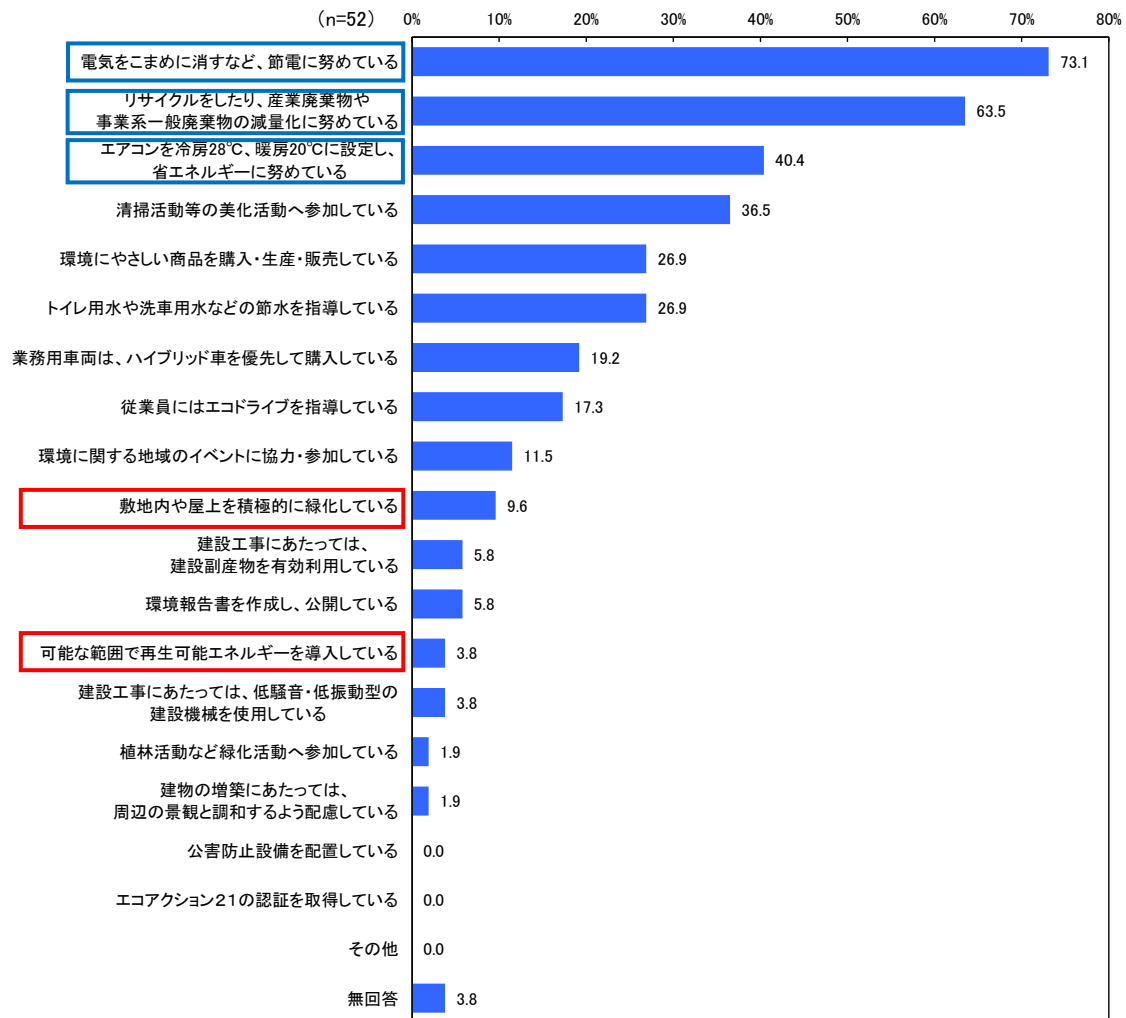
- ・「関連がある」、「少しは関連がある」は、「産業廃棄物の排出」が69.2%、「二酸化炭素の排出による地球温暖化」が51.9%であり、割合が相対的に高くなっている。
- ・「関連がない」は、「夜間照明（光害）」、「地盤沈下」、「日照阻害・電波障害」の割合が相対的に高くなっている。



オ 事業所での環境保全の取り組み内容

事業所で環境保全のために取り組んでいる内容の回答は、以下のとおりとなる。

- ・「電気をこまめに消す等の節電」が73.1%、「リサイクル、廃棄物の減量化」が63.5%、「エアコン設定による省エネ」が40.4%と、割合が高くなっている。
- ・一方、特にクールチョイスに資する項目として、「敷地内や屋上の積極的な緑化」が9.6%、「可能な範囲での再エネ導入」が3.8%であり、割合が低くなっている。

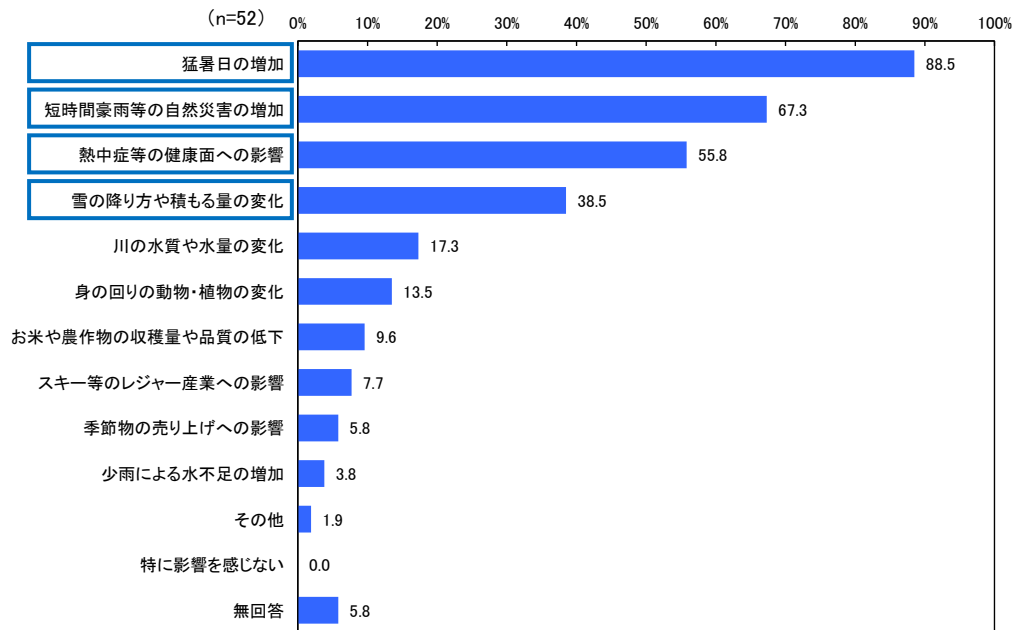


(3) 地球温暖化に関すること

ア 普段の業務で地球温暖化の影響を感じる事柄

普段の業務の中で、感じられる地球温暖化の影響についての回答は、以下のとおりとなる。

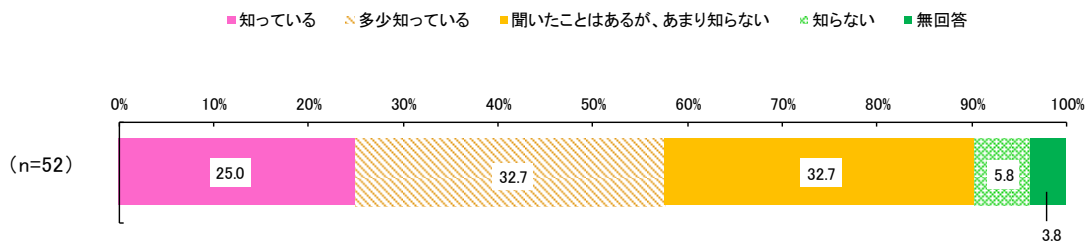
- ・「猛暑日の増加」が 88.5%、「短時間豪雨等の自然災害の増加」が 67.3%、「熱中症等の健康面への影響」が 55.8%、「雪の降り方や積もる量の変化」が 38.5%であり、主に気象に関する事柄の割合が高くなっている。



イ パリ協定における我が国の温室効果ガス削減目標の認知状況

パリ協定（COP21）における我が国の温室効果ガス削減目標について、事業所における認知状況は、以下のとおりとなる。

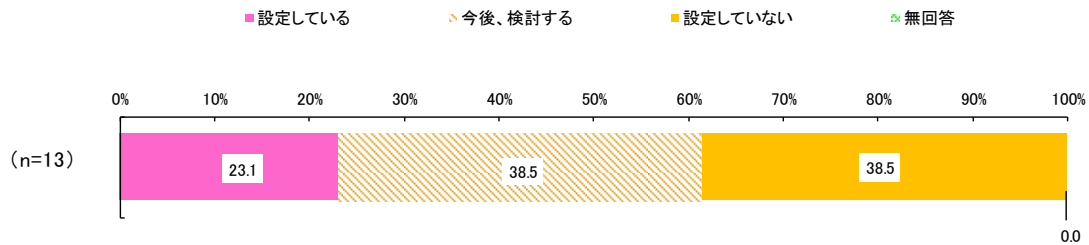
- ・「知っている」、「多少知っている」が 57.7%となっている。
- ・一方で「聞いたことはあるが、あまり知らない」、「知らない」は 38.5%であり、認識の薄い事業者の割合も一定程度ある。



ウ 事業所での温室効果ガス削減目標の設定状況

事業所における温室効果ガス削減目標の設定状況についての回答は、以下のとおりとなる。

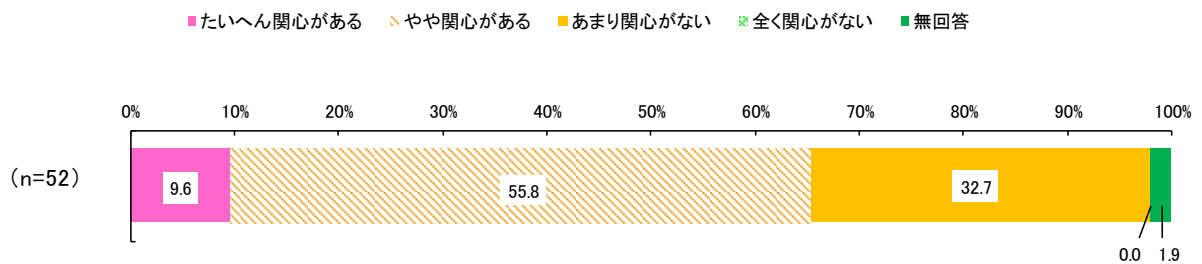
- ・「設定している」は23.1%であり、割合としては低くなっている。
- ・「今後、検討する」、「設定していない」はそれぞれ38.5%となっている。



エ 省エネや地球温暖化対策についての研修会等への関心

省エネや地球温暖化対策についての研修会等への事業所としての関心は、以下のとおりとなる。

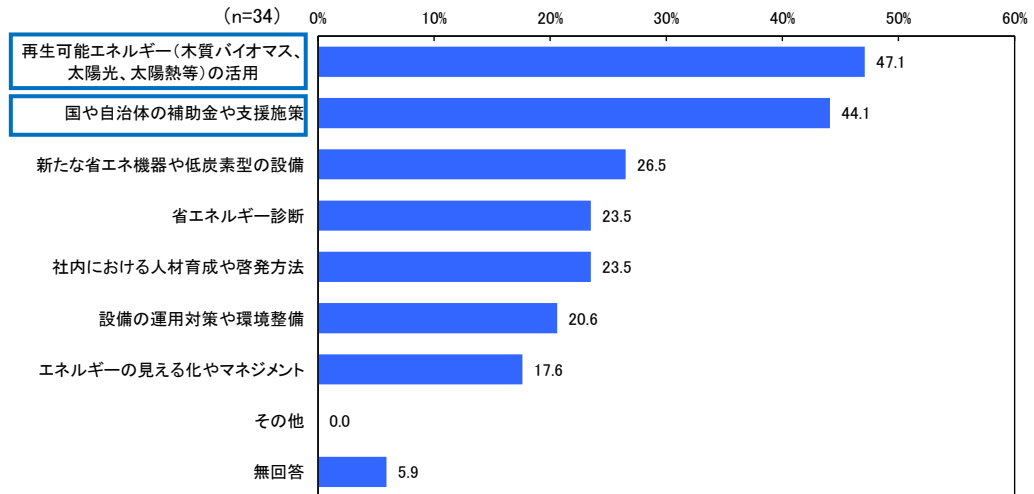
- ・「たいへん関心がある」、「やや関心がある」が65.4%であり、割合がやや高くなっている。
- ・「あまり関心がない」は32.7%、「全く関心がない」は0%であった。



オ 省エネや地球温暖化対策についての研修会等される場合のテーマ

今後の省エネや地球温暖化対策の研修会等で希望するテーマは、以下のとおりとなる。

- ・「再生可能エネルギー（木質バイオマス、太陽光、太陽熱等）の活用」が47.1%、「国や自治体の補助金や支援施策」が44.1%であり、割合が高くなっている。
- ・なお、例示したテーマの中では、特に割合の低いものはなかった。

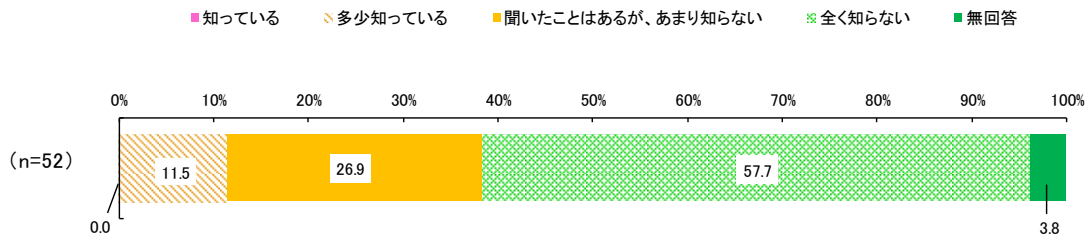


(4) クールチョイスについて

ア クールチョイスの認知状況

クールチョイスの認知状況についての市民の回答は以下のとおりとなる。

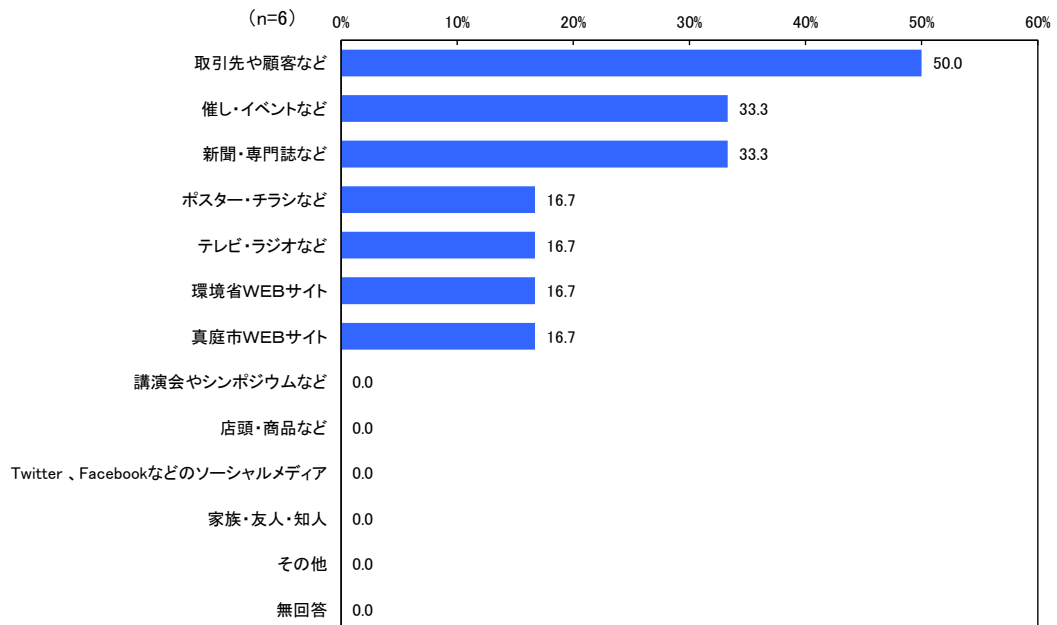
- ・「知っている」は0%、「多少知っている」の割合は11.5%にとどまった。
- ・一方、「聞いたことはあるが、あまり知らない」、「全く知らない」、「無回答」の割合は88.4%となった。



イ クールチョイスを知ったきっかけ

クールチョイスを知ったきっかけについての回答は、以下のとおりである。

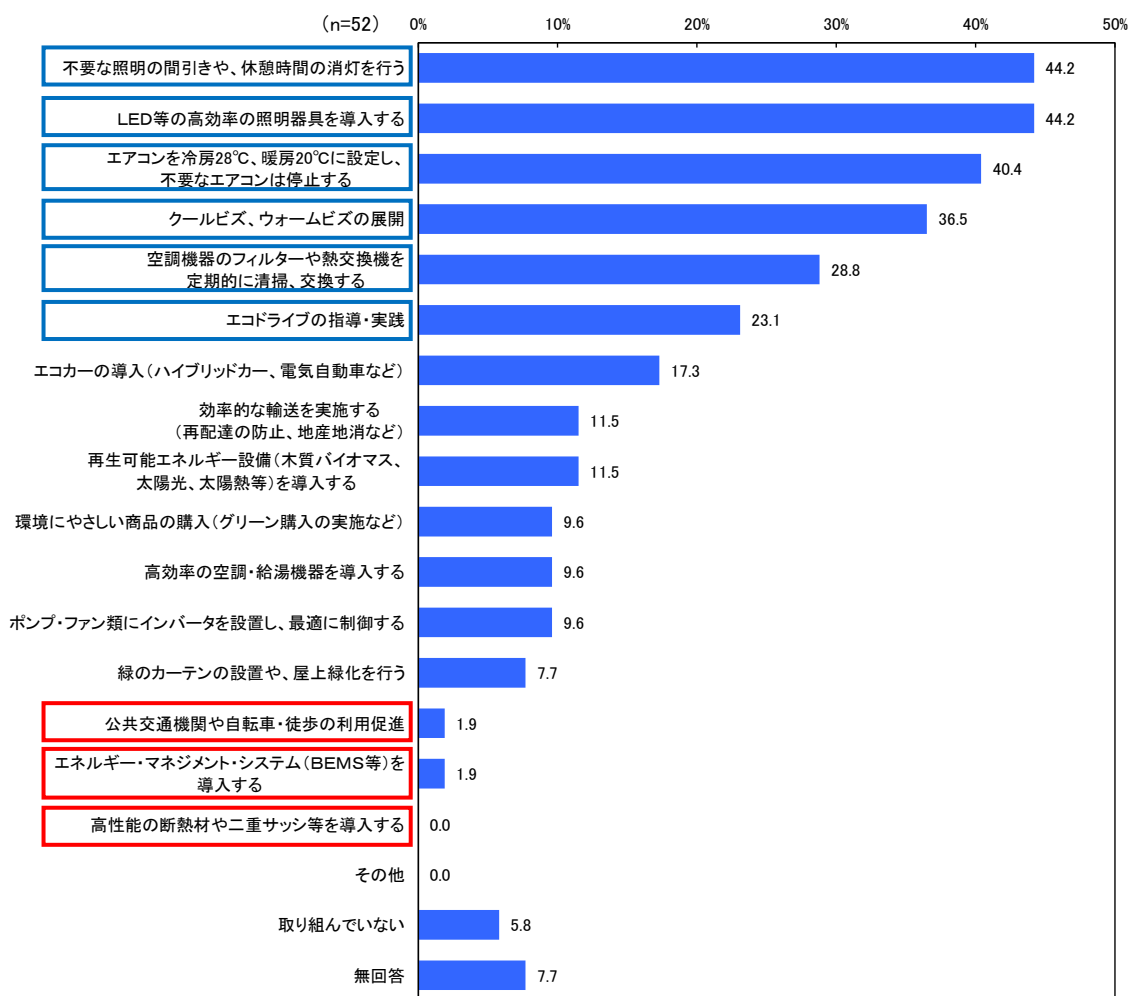
- ・クールチョイスを知ったきっかけは、「取引先や顧客など」、「催し・イベントなど」、「新聞・専門誌など」、「ポスター・チラシなど」、「テレビ・ラジオなど」、「環境省WEBサイト」、「真庭市WEBサイト」があげられる。



ウ 事業所でのクールチョイスの取り組み内容

普段の業務活動中でのクールチョイスの取り組み内容の回答は、以下のとおりとなる。

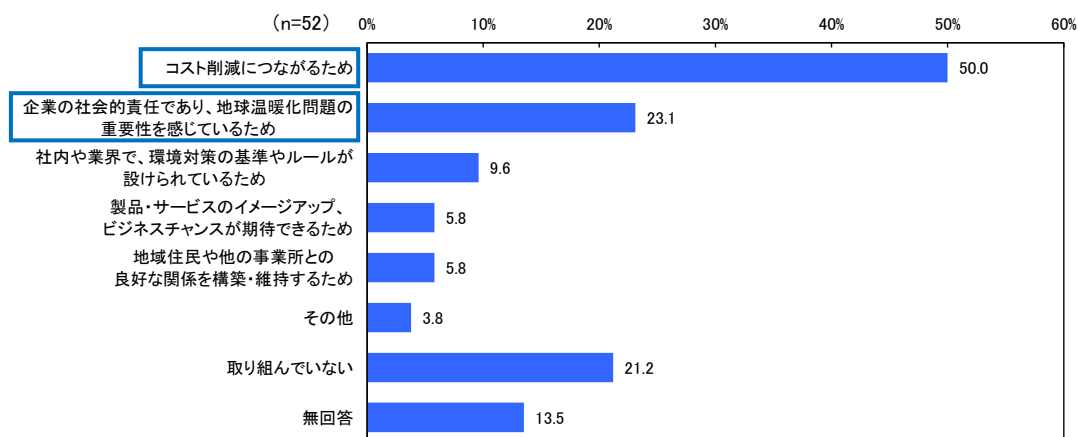
- ・取り組み内容では、「不要な照明の間引きや、休憩時間の消灯」、「LED 照明等の高効率の照明器具の導入」がそれぞれ 44.2%、「エアコンの設定、不要なエアコンの停止」が 40.4%、「クールビズ・ウォームビズの展開」が 36.5%、「空調機器のフィルターや熱交換機の清掃、点検」が 28.8%、「エコドライブの指導・実践」が 23.1%であり、割合が高くなっている。
- ・一方、「公共交通機関や自転車・徒歩の利用促進」、「エネルギー・マネジメント (BEMS 等) の導入」はそれぞれ 1.9%、「高性能の断熱材や二重サッシの導入」は 0%と割合が低くなっている。



エ 事業所でクールチョイスに取り組む理由

クールチョイスに取り組む理由の回答は、以下のとおりとなる。

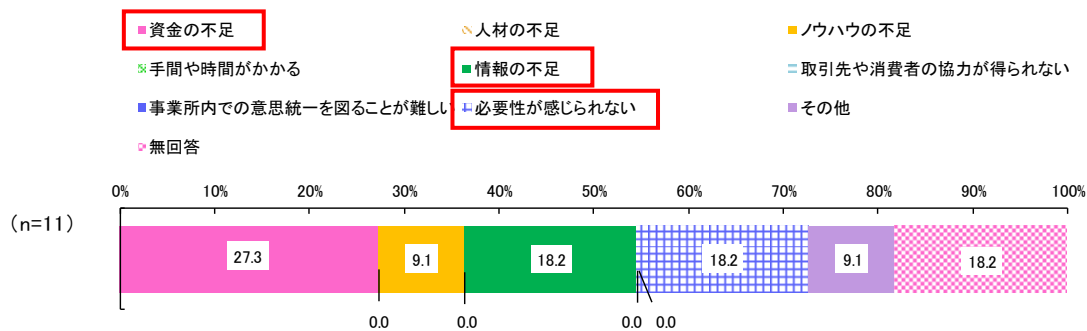
- ・クールチョイスに取り組む理由は、「コスト削減につながるため」が 50.0%で最も割合が高くなっている。次いで「企業の社会的責任であり、地球温暖化問題の重要性を感じているため」が 23.1%で割合が高くなっている。
- ・また、「その他」の記載事項としては、業務の無駄を省きたい等の回答があげられる。



オ 事業所でクールチョイスに取り組んでいない理由

クールチョイスに取り組んでいない理由の回答は、以下のとおりとなる。

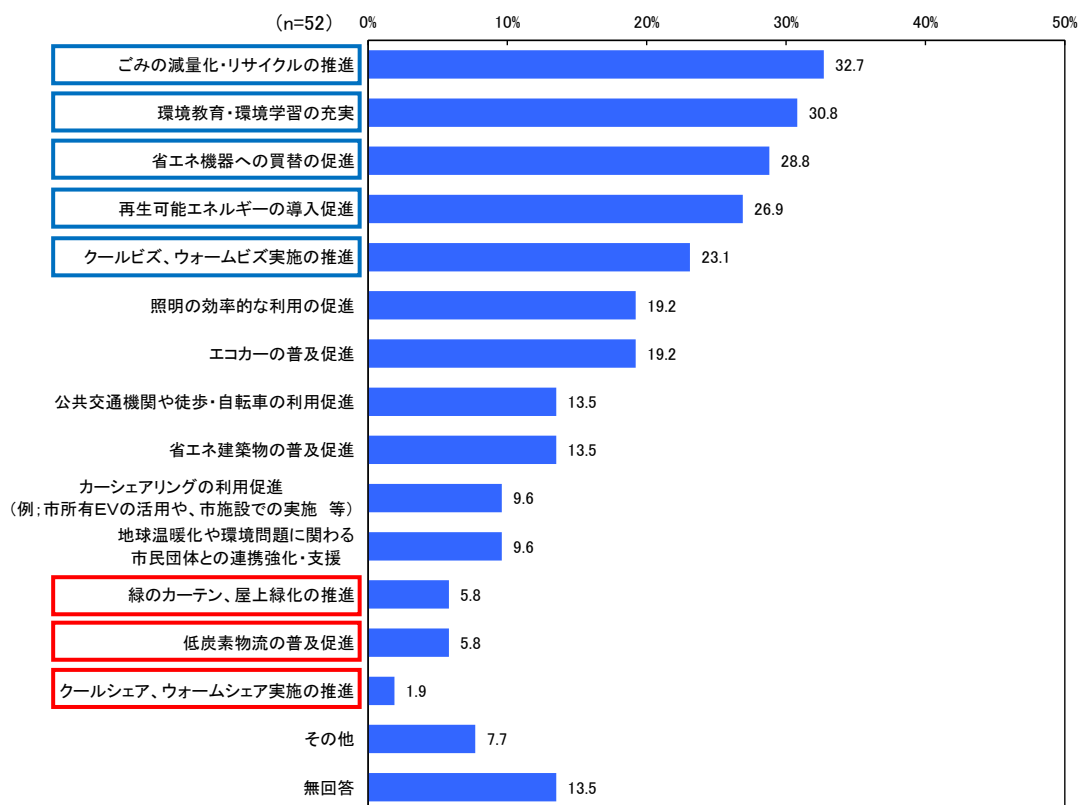
- ・クールチョイスに取り組まない理由は、「資金の不足」が 27.3%で最も割合が高く、次いで「情報の不足」、「必要性が感じられない」がともに 18.2%で割合が高くなっている。
- ・なお、「その他」の記載事項は、特になかった。



カ 地球温暖化対策の推進に向けた真庭市（行政）への期待

地球温暖化対策を推進するにあたり、真庭市（行政）へ期待することについての回答は、以下のとおりとなる。

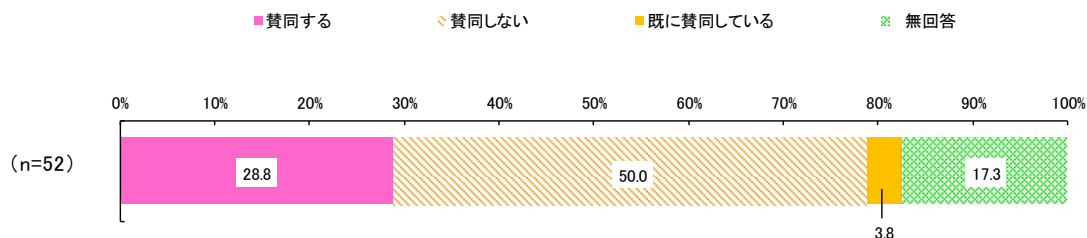
- ・「ごみの減量化・リサイクルの促進」は32.7%であり、割合が最も高くなっている。
- ・次いで「環境教育・環境学習の充実」が30.8%、「省エネ機器への買替の促進」が28.8%、「再生可能エネルギーの導入促進」が26.9%、「クールビズ、ウォームビズ実施の推進」が23.1%で、割合が高くなっている。
- ・一方、「緑のカーテン、屋上緑化の推進」、「低炭素物流の普及促進」は5.8%、「クールシェア・ウォームシェア実施の推進」は1.9%であり、割合が低くなっている。
- ・また、「その他」の記載事項としては、できることから推進する、資金のかからないことを推進する等の回答があげられる。



キ クールチョイスへの賛同

クールチョイスへの賛同の回答は以下のとおりである。

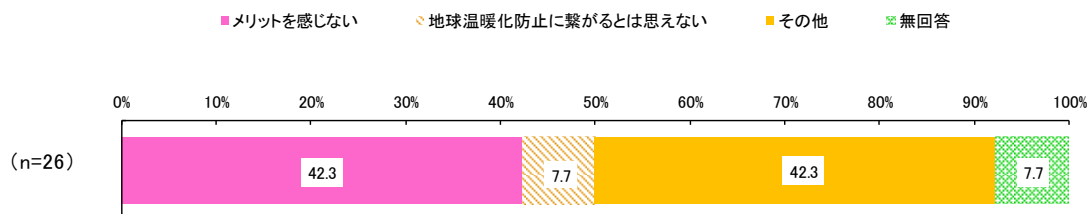
- ・「賛同する」、「既に賛同している」は32.6%で、「賛同しない」は50.0%の割合となった。
- ・「無回答」は17.3%であり、割合がやや高くなっている。



ク クールチョイスへ賛同しない理由

クールチョイスに賛同しない理由の回答は以下のとおりとなる。

- ・「メリットを感じない」が42.3%で、割合が高くなっている。
- ・また、「その他」の記載事項としては、関連性が薄い、1事業所では判断ができない等があげられる。



(5) 真庭市の環境行政に関するご意見・ご要望

真庭市の環境行政に関する意見や要望について、自由に記載された意見の概要は以下のとおりとなる。

- ・畜産業の堆肥化施設の維持管理の徹底（行政による指導）